

ブレンド型大学授業における 授業形態の好みと 成績の関連

早稲田大学大学院
人間科学研究科
富永 敦子

早稲田大学
人間科学学術院
向後 千春

はじめに — 研究の背景 —



ブレンド型授業のタイプ

タイプによって
学習効果は
変わる？

■ 予習タイプ

- ① eラーニングで学習し、課題等を行う。
- ② 教室授業に出席。

■ 復習タイプ

- ① 教室授業を収録しeラーニング化。
- ② 受講生はeラーニングで復習。

■ 補習タイプ

- 受講生間の差が大きいスキルを補う
例：パソコン操作コンテンツ

本研究の概要

- 予習タイプのブレンド型授業
(eラーニング+グループワーク)を
実施した。
- 授業形態の好みと成績との関連を
調べた。

問題提起

- 授業形態(eラーニング・グループワーク)の好みは, 受講前と受講後で変化するのか.
- また, 成績によって, 変化の違いはあるのか.
- 授業形態の好みと, 授業形態ごとの成績とは関連するのか.

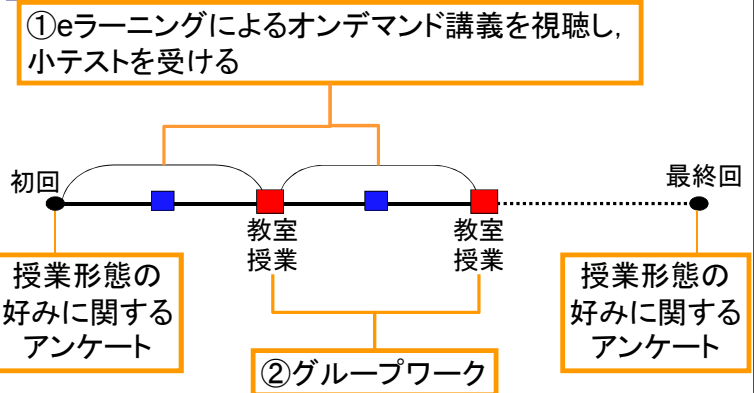
方法



授業の概要

- インストラクショナルデザインに関する科目
- 登録受講者数271人
(男性174人, 女性97人)
- 予習タイプのブレンド型授業を実施

授業の流れ



小テスト:受講生に考えさせる問題

以下のABC分析について, 1~5のいずれかに分類してください.

問1 (テレビの画面が乱れたときに)画像の乱れあり→テレビを叩く→画像の乱れなし

1. 好子出現による強化
2. 好子消失による弱化
3. 嫌子出現による弱化
4. 嫌子消失による強化
5. 消去

オンデマンドの講義内容を
正しく理解していなければ
正解できない

回数: 12回
1回あたりの問題数: 17.9問
回答方法: ○×式, 選択式
自動採点

教室授業:グループワーク

- 7回実施
- 1グループ6人
- アイスブレイク(自己紹介を含むゲーム)
- タスク(15分を1セッション)
 - オンデマンドの講義内容についての討議
 - オンデマンドの講義内容の応用
例:シェイピングゲーム

オンデマンド講義を
視聴していないと,
専門用語がわからない

授業形態の好みに関するアンケート

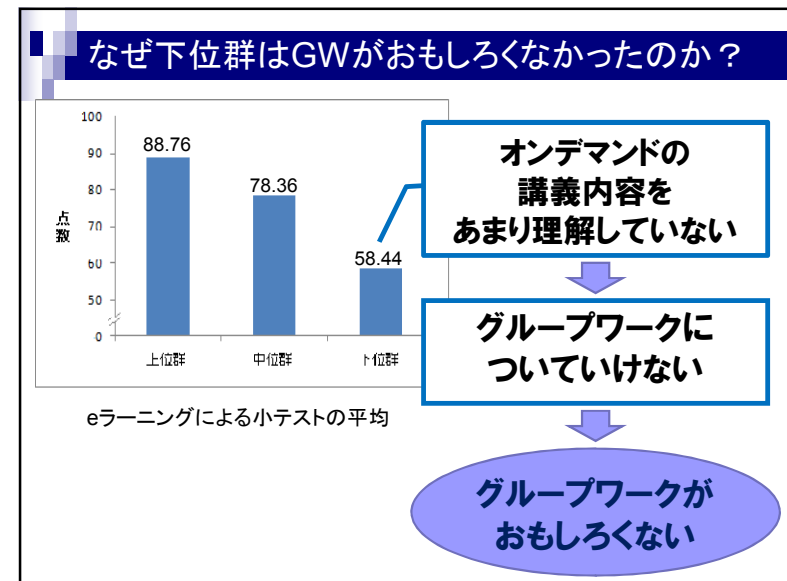
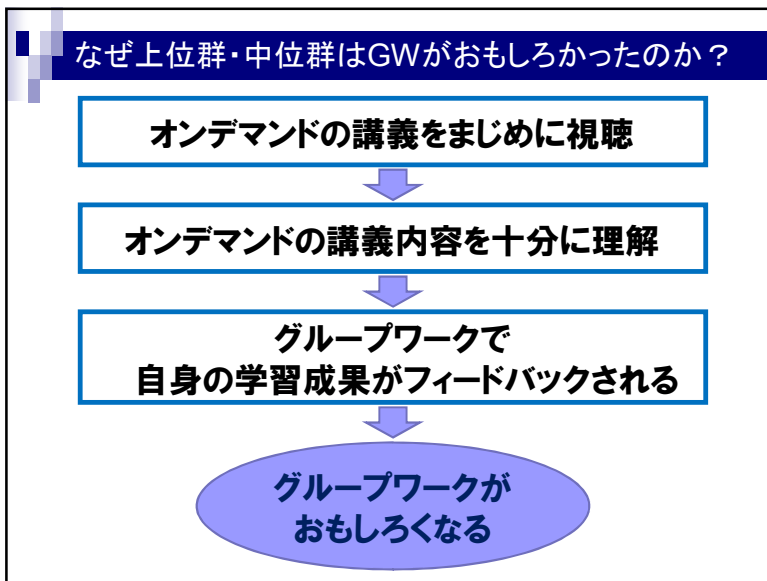
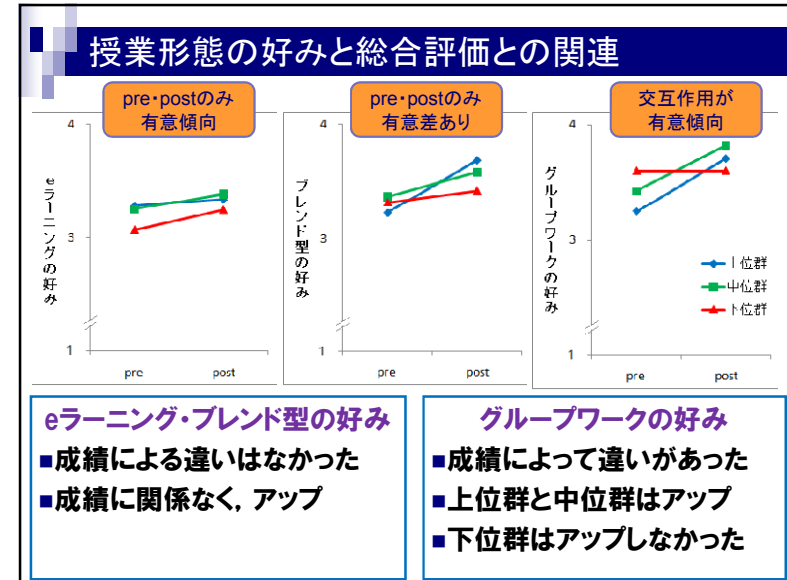
- 授業開講の開始時期と終了時期に実施
- 質問項目(授業形態に関する好み)
 - eラーニングは好きか?
 - ブレンド型授業は好きか?
 - グループワークは好きか?
- 回答方法:5件法
 - 大好き, 好き, どちらでもない, 嫌い, 大嫌い

結果および考察 — 授業形態と総合成績との関連 —



成績		
評価項目	平均	
eラーニングによる小テスト(50%)	78.23 (SD=14.09)	
教室授業への参加(30%)	92.49 (SD=10.46)	
レポート(10%)	95.95 (SD=13.64)	
オンデマンド講義の視聴(10%)	90.18 (SD=14.92)	
総合成績	85.47 (SD=9.82)	

評価	人数	
A+ 90点以上	52人	→ 上位群(52人)
A 80点以上90点未満	51人	→ 中位群(51人)
B 70点以上80点未満	14人	→ 下位群(28人)
C 60点以上70点未満	11人	
F 60点未満	3人	

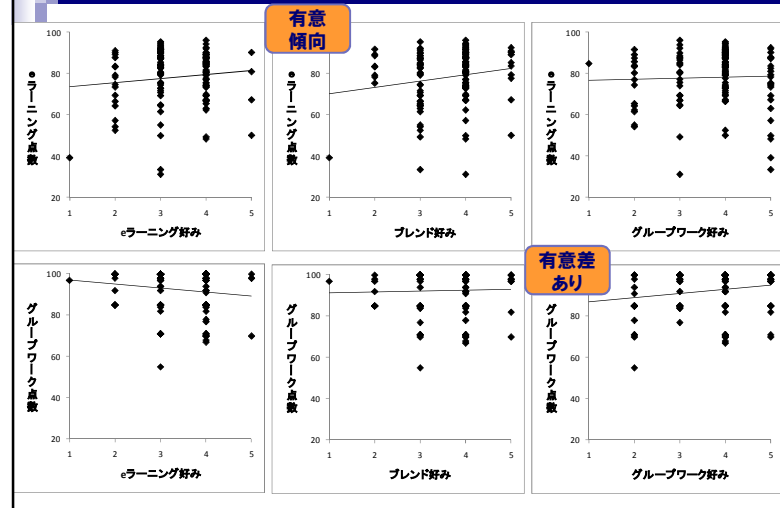


結果および考察

授業形態の好みと 授業形態別成績との関連



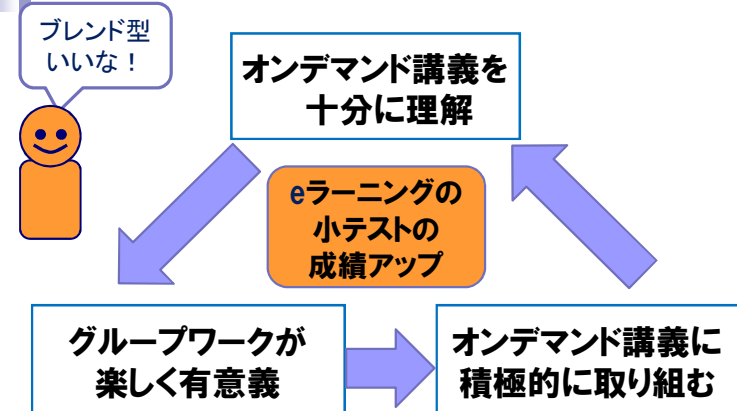
授業形態別成績と授業形態の好みとの相関

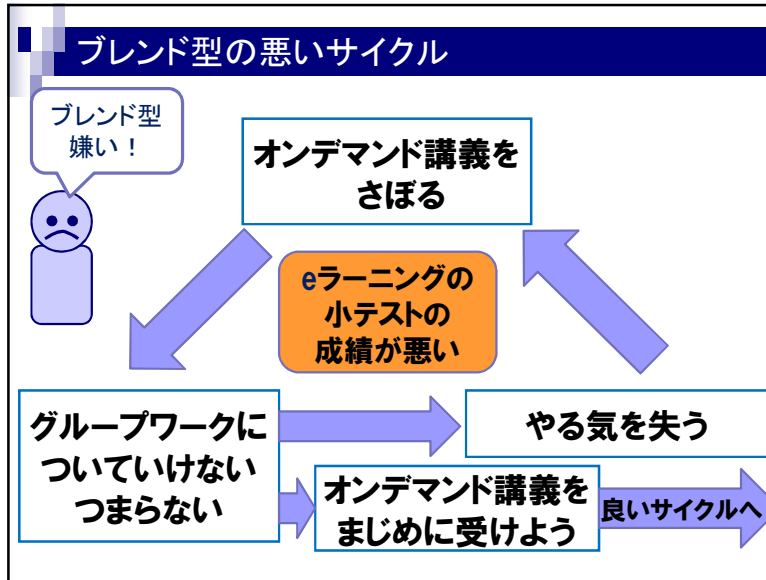


なぜeラーニングの成績とブレンド型の好みとの間に相関があったのか？

ブレンド型の
良いサイクルに
ハマるかどうか？

ブレンド型の良いサイクル





結論

予習タイプのブレンド型授業を実施 (オンデマンド講義とグループワークとが密接に関連)

↓

- 成績上位者・中位者は、授業前より授業後のほうがグループワークの好みが高くなったが、下位者は好みに変化はなかった。
- eラーニングの内容の理解が不十分だと、グループワークについていけないため、おもしろくなる。
- ブレンド型の良いサイクルにハマルかどうか成績に影響を与える。

今後の課題

- 成績下位者への対応
 - できるだけ早い時期に、ブレンド型の良いサイクルに適応させる
 - 小テストの結果をもとに、TAが個別にアプローチする

ご静聴ありがとうございました。

